



大久保病院だより

インフルエンザ

副院長 稲葉茂樹

インフルエンザの症状

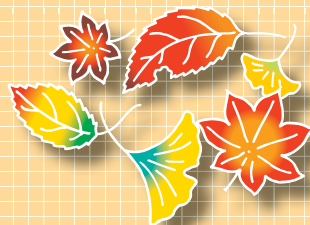
毎年冬になると猛威を振るうインフルエンザという病名を聞いたことがない人はいないと思います。医学書を見ると「インフルエンザ ウイルスによって引き起こされる急性感染症で（中略）比較的急速に出現する悪寒、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛などの全身症状を特徴とし、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、咳、痰などの気道炎症状を伴う。腹痛、嘔吐、下痢といった胃腸症状を伴う場合もある。」というようなことが書かれています。多くの場合は命にかかわることはありませんが幼児、妊婦、高齢者、あるいは喘息、糖尿病、心疾患などにより抵抗力が落ちている人では重症化して命を落とすこともある病気です。

感染経路

インフルエンザは患者がくしゃみ、咳あるいは会話をするときまき散らされるウイルスを含んだ唾液や粘液の飛沫が周囲の人の口や鼻粘膜に到達することにより伝播します（飛沫感染）。また、このようなウイルスを含んだ飛沫が付着した物の表面を触った手で口、眼、鼻などの粘膜に触れることによって感染することもあります（接触感染）。インフルエンザの流行期にマスク、手洗い、うがいの励行が勧められるのは飛沫・接触感染の侵入経路を絶つという意味があるのです。

ワクチン接種について

インフルエンザ ウイルスの感染経路をシャットアウトすることと同じくらい重要なのがワクチン接種です。特に高齢者や抵抗力が落ちている人ではインフルエンザに罹れば重症化するリスクが高いためインフルエンザワクチンは是非打っておいた方が良いでしょう。ワクチン接種後ウイルスに対する免疫ができるまで約2週間かかります。従って、ワクチン接種は季節性インフルエンザの例年の流行が始まる12月より前に受けた方が良いでしょう。この「大久保病院だより」が皆さんの手元に届くころには、そろそろ今年のインフルエンザワクチンはどうしようかと思案する時期になっていると思います。当院かかりつけの患者さんは当院にて接種が出来ますので、主治医に早めにご相談下さい。



● ジェネリック医薬品とは ●

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、これまで使われてきたお薬（先発医薬品）の特許が切れた後に、同等の品質で製造販売される低価格のお薬です。最近は、多くの病気や症状に応じたジェネリック医薬品が発売されています。

効き目や安全性は先発医薬品と同等であることが確認されているので安心して使うことができます。また、薬によってはジェネリック医薬品が発売されていないものもあります。処方されたお薬がジェネリック医薬品に変更できるかどうかなど、詳しいことはかかりつけの医師・薬剤師にご相談ください。当院1階薬剤科窓口でパンフレットをご用意しております。



■内分泌代謝内科の紹介

内分泌代謝内科 医長 足立 淳一郎



当科では、高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病や甲状腺、副腎疾患などの内分泌疾患を担当しています。特に糖尿病の診療に力を入れています。糖尿病は血糖値（血液中にブドウ糖がどのくらいあるかを示す指標）が高くなる病気です。その原因は、膵臓で作られるインスリンというホルモンが不足し、うまく細胞に作用しなくなるためです。糖尿病を放置すると手足のしびれ、失明、むくみ、足の壊疽、心疾患、脳卒中などの合併症を引き起こします。糖尿病は、病状が進行しても症状が出にくいいため、合併症が進行してから気づかれることがよくあります。合併症が進行すると生活に支障をきたし、最悪の場合は、命を落とす原因にもなります。よって、合併症が進行する前に糖尿病を治療することが重要です。過食、肥満、運動不足の人は糖尿病になりやすく、生活習慣の改善が必要です。当科では食事、運動療法の指導はもちろん、薬物治療も病状、合併症など患者さんに合わせた治療を行っています。

今年度、大久保病院に新たに誕生したスペシャリストの “看護認定看護師2名”をご紹介します。



浦野 美雪

がん性疼痛看護認定看護師の浦野美雪です。

がんの痛みは、身体だけでなく、心や生活にも影響を及ぼします。そんな痛みを総合的に評価し、それぞれの患者さんにあった薬を選択し、痛みのコントロールを患者さんと共に考えていきます。入院されている方や在宅療養されている方の痛みが

緩和され、安心した生活を送れるようにサポートしますので、どうぞよろしくをお願いします。



熊倉 佐代子

がん化学療法看護認定看護師の熊倉佐代子です。

がんと共に生きる患者さんと御家族に寄り添い、身体面・精神面でのサポートを行っていきます。抗がん剤治療による副作用に対して、患者さん自身が対処していけるように、生活環境に合わせたセルフケア方法を一緒に考えていきたいと思っています。

どうぞよろしくをお願いします。

公益財団法人日本医療機能評価機構の Ver.6.0 の認定を受けました。



当院は平成25年6月7日付で公益財団法人日本医療機能評価機構が行っている病院機能評価Ver.6.0の認定を受けました。

病院機能評価とは公益財団法人日本医療機能評価機構が中立・公平な立場になって「病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が適切に実施されているか」を評価するものです。

以下の評価項目を「書面審査」及び機構側のサーベイヤー（評価調査者）による「訪問審査」にて評価が行われます。

評価項目（当院の場合）は、

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 病院組織の運営と地域における役割 | 4 医療提供の組織と運営 |
| 2 患者の権利と医療の質および安全の確保 | 5 医療の質と安全のためのケアプロセス |
| 3 療養環境と患者サービス | 6 病院運営管理の合理性 |
- の6項目になります。

今後も病院環境をより良くしていく活動を職員一丸となって継続して参ります。



公益財団法人 東京都保健医療公社

大久保病院

〒160-8488

東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

TEL 03-5273-7711(代表)

URL <http://www.ohkubohospital.jp>

